

四万十市の子どもたちにとって望ましい教育環境について

◎新しい学習指導要領に基づいた教育が行われます！
（今年度より移行措置、小学校は平成32年度、中学校では平成33年度から全面实施）
 ◎大学入試が変わります！（平成32年度から＝今の高校1年生から）

子どもたちが生きていくこれからの社会（10年後、20年後）は…？

- 予測困難な社会
- 人口減少・少子化
- グローバル化の進展
- 人工知能の急速な進化
- 65%は今存在していない職業につく…

●小規模校のメリット●

- ☆学校行事等において、一人一人が活躍する場が生まれやすい。
- ☆個に応じた丁寧な指導がしやすい。
- ☆教員の目が行き届きやすい。
- ☆お互いの顔や名前、性格まで把握し人間関係が濃密である。
- ☆異学年の交流がしやすい。
- ☆保護者や地域コミュニティとの一体感が生まれやすい。

●小規模校の課題●

- ☆学校行事等で十分な教育効果が得られにくい。
- ☆クラスの枠を超えた多様な指導形態（習熟度別、テーマ別）がとりにくい。
- ☆体育や音楽などにおける集団学習の実施において制約が生じる。
- ☆班活動やグループ分け、協働的な学習で取り上げる課題等に制約が生じる。
- ☆人間関係が固定化しやすい。
- ☆クラス替えができない。クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない。
- ☆学習や進路選択の模範となる先輩の数が少ない。
- ☆現在、将来において影響を与える先生の数が限定される。
- ☆部活動が限定される。

四万十市の子どもたちにとって望ましい教育環境は？

変化の激しいこれからの時代を生きていく子どもたちには、ある一定規模の教育環境で学習や生活をする必要がある **【望ましい学校規模の目安】**

◆これからの子どもたちに育みたい資質・能力

- 学校教育法に示された「基礎的な知識及び技能」「これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力」及び「主体的に学習に取り組む態度」
- 目的に応じて必要な情報を見だし、答えのない課題に対して、多様な他者と協働しながら目的に応じた納得解を見出す力
- 自分なりに試行錯誤したり、多様な他者と協働したりして、新たな価値や文化を生み出していく力
- 読解力「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、社会に参加するために、テキストを理解し、利用し、熟考し、取り組むこと」
- 人間としての生き方を幅広く学び、深く考え、自分なりの人生を切り拓いていく力



◆そのために必要とされる授業や教育活動

- 主体的・対話的で深い学び
- 異なる多様な他者と協働して主体的に課題を解決しようとする学習活動の重視
- 異なる個性をもつ者同士で問題を解決する活動
- 一人ひとりの実態や学習課題・欲求にあわせた多様な学習形態
- 考え議論する道徳の授業 多面的・多角的に考える道徳授業
- 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりする活動
- 主体的に組織をつくり、役割を自覚しながら仕事を分担して、協力し合う活動
- 共生社会の実現を目指したインクルーシブ教育

